



◆◆◆ 国際通貨研究所メールマガジン（第 32 号 2014/11/10 発行）



<http://www.iima.or.jp/>



◇1. 理事長 行天豊雄 コラム◇

個人プレーを競う

<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2014/20141110gyoten.pdf>

世界経済は各国が個人プレーに集中する競演場になってきた。米国は如何にして QE を終えて金融政策を正常化するかが最大の関心事である。しかし実体経済の動向は 仲々微妙で一直線に政策転換とい…

◇2. 客員研究員 山上秀文 コラム◇

「近大マグロ」にみる国際的な研究のありかた

<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2014/20141110yamagami.pdf>

2013 年 12 月、東京銀座に養殖魚専門料理店「近大卒の魚と紀州の恵み 近畿大学 水産研究所 銀座店」が、同年 4 月開店の梅田グランフロント大阪店に続く 2 号店 として開店して 1 年近く、連日大盛況…

■ IIMA Global Market Volatility Index・購買力平価グラフの更新 ■

<http://www.iima.or.jp/research/ppp/index.html>

◀掲載内容▶

- IIMA Global Market Volatility Index
(グローバルな金融・資本市場のリスク度を表す指数)
- 購買力平価グラフ
(ドル円) (ユーロドル) (ユーロ円)

■ 今月の新着レポート ■

1. 「グローバル金融危機とその後の国際金融規制の議論」 佐久間 浩司

http://www.iima.or.jp/Docs/report/2014/no3_2014_j.pdf

グローバル金融危機を、その前夜の出来事からその後の国際金融規制の議論まで含めて解きほぐし易しく解説したもの。原因のキーワードである証券化とグローバル化は既知のことと思うが、その意味するところを改めて考えるレポート。

2. 「経済制裁下のロシア経済～制裁と原油価格低下で設備投資への影響が深刻に～」 森川 央

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No_39_j.pdf

7月から米欧による対露経済制裁が強化され、ロシアはトリプル安（株安、債券安、通貨安）に見舞われている。ダメージを大きくしているのは金融規制である。ロシアの国営銀行、エネルギー関連企業、兵器産業は、事実上、国際金融市場にアクセス不能になっており、外貨の資金繰りが悪化しているからである。制裁と原油価格低下がロシア経済に及ぼす影響を考えてみた。

3. 「南アフリカにみるアフリカ資源国経済の課題～雇用の拡大と所得格差の縮小をいかに実現するか～」 井上 裕介

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No_38_j.pdf

資源ブームが終焉し、南アフリカ経済は難しい局面に立たされている。サブサハラ地域におけるフロントランナーである南アフリカ経済の苦難は、その他の同地域諸国でもみられる現象である。南アフリカにおける経済成長再加速への取組みは、今後のサブサハラ地域における経済成長の試金石ともなろう。

4. 「カザフスタン経済の現状と展望」 加藤 淳

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No_37_j.pdf

外部環境の悪化とカシャガン油田の生産停止により景気は当面弱含みで推移することが見込まれるものの、カシャガン油田の生産再開後にはカザフスタン経済は成長軌道に復帰する見込みである。産業の多様化や生産性向上を図る必要があり、ビジネス環境の弛まめ改善が求められる。

5. 「ラテン・アメリカはなぜ立ち遅れたのか」 森川 央

http://www.iima.or.jp/Docs/topics/2014/264_j.pdf

北のアメリカ合衆国、カナダとメキシコ以南の中南米諸国との所得格差は大きい。その説明のため、様々な仮説が提示されてきた。地理・地勢説、文化説、人種説などである。しかし、これらはすべて南北アメリカの格差を説明できない。本稿では、制度の歴史的展開から南北格差に迫ってみた。

9 月末から 10 月上旬にかけての約 2 週間、当研究所は、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム 4 カ国の財務省や中央銀行等の債券市場育成整備の政策担当者を東京に招き、研修を実施しました。これは、独立行政法人国際協力機構（JICA）による我が国の ODA 技術協力の一環として行われたものであり、受講者はそれぞれの国で、債券市場整備のための政策を推進していくことが期待されています。

アジア通貨危機以後、アジアにおける債券市場整備の重要性は継続して唱えられてきましたが、10 月上旬にワシントンで開催された IMF 世銀総会においても、投資を呼び込み、民間に資金を効率的に分配するために、金融システムも銀行頼みではなく多様な調達手段が整備されるべきだという議論がなされていました。アジアにおける通貨・金融協力は当研究所の重点テーマの 1 つであり、今後もこのような活動に積極的に取り組んで参りたいと思います。

【バックナンバー】

<http://www.iima.or.jp/mailmagazine.html>

【次号】

2014 年 12 月 10 日配信予定

【メールマガジンの配信停止・配信先変更】

<https://m.entryform.jp/m/iima/>

【各種お問い合わせ】

admin@iima.or.jp

※閲覧には Adobe Reader が必要です。

Adobe Reader のダウンロードはこちらから

→<http://get.adobe.com/jp/reader/>

本メールは配信専用のアドレスからお送りしております。

返信をいただいても当方では受け取ることができません。

◇発行◇

公益財団法人 国際通貨研究所

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2 三菱東京 UFJ 銀行日本橋別館 12 階

[HP] <http://www.iima.or.jp>

Copyright(C) IIMA All Rights Reserved.